


●アレルギール錠

【使用上の注意】

 使用上の注意 してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります)

1. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないで下さい。
他のアレルギー用薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬等(かぜ薬、鎮咳去痰薬、鼻炎用内服薬、乗物酔い薬等)
2. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないで下さい。(眠気等があらわれることがあります)
3. 長期連用しないで下さい。



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。
 - (1) 医師の治療を受けている人
 - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人
 - (3) 高齢者
 - (4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人
- (5) 次の症状のある人
むくみ、排尿困難

【解 説】

1. 共通事項解説〔2〕参照
2. 抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)は、眠気等を生じる可能性があるため、重大な事故につながるおそれがあります。
3. 共通事項解説〔3〕参照
グリチルリチン酸カリウムの長期・大量摂取により、偽アルドステロン症があらわれるおそれがあります。
1.
 - (1) 共通事項解説〔4〕参照
 - (2) 共通事項解説〔5〕参照
 - (3) 共通事項解説〔6〕参照
 - (4) 共通事項解説〔7〕参照
- (5) 記載されている症状のある人は、下記のような理由で服用前に相談が必要です。
 - むくみ
グリチルリチン酸カリウムを大量に摂取すると、ナトリウム貯留、カリウム排泄促進が起こり、浮腫、高血圧、四肢麻痺、低カリウム血症等の症状があらわれるおそれがあります。
これらの症状は、偽アルドステロン症として報告されています。いずれも服用中止により緩解していますが、高齢者、高血圧、心臓病、腎臓病の人は注意が必要です。
 - 排尿困難
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)の抗コリン作用により、膀胱の緊張が減少することがあるため、症状が悪化し、さらに尿が出にくくなるおそれがあります。
また、前立腺肥大がある場合には、尿閉があらわれるおそれがあります。

●アレルギール錠

【使用上の注意】

- (6) 次の診断を受けた人
心臓病、高血圧、腎臓病、緑内障

2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性がありますので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤、かゆみ
消化器	吐き気・嘔吐、食欲不振
泌尿器	排尿困難

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診療を受けて下さい。

症状の名称	症 状
偽アルドステロン症、ミオパチー	手足のだるさ、しびれ、つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらくらとする、血尿等があらわれる。
無顆粒球症	突然の高熱、さむけ、のどの痛み等があらわれる。

3. 服用後、次の症状があらわれることがありますので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。
口のかわき、眠気

【解 説】

- (6) 記載されている疾患の診断を受けた人は、本剤に配合されている成分により、病状が悪化するおそれがありますので、服用前に相談が必要です。

- 心臓病、高血圧、腎臓病
グリチルリチン酸カリウムを大量に摂取すると、ナトリウム貯留、カリウム排泄促進が起こり、尿量減少、浮腫、高血圧、四肢麻痺、低カリウム血症等の症状があらわれ、心臓病、高血圧、腎臓病を悪化させるおそれがあります。
- 緑内障
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)の抗コリン作用により、房水水路が狭くなり、眼圧が上昇し、緑内障を悪化させるおそれがあります。

2. 例示したような副作用症状が起こる可能性があります。これらの症状があらわれた場合には、症状の増悪や重篤な副作用への移行を未然に防ぐため、直ちに服用を中止し、服用している薬剤の成分等がわかる添付文書を持参の上、専門家に相談する必要があります。

下記のような重篤な症状があらわれたら、直ちに服用を中止し、医師の診療を受ける必要があります。

- 偽アルドステロン症、ミオパチー
グリチルリチン酸カリウムの大量服用により起こることがあります。
重篤な症状の解説〔9〕参照
- 再生不良性貧血
クロルフェニラミンマレイン酸塩により起こることがあります。
重篤な症状の解説〔11〕参照
- 無顆粒球症
クロルフェニラミンマレイン酸塩により起こることがあります。
重篤な症状の解説〔12〕参照

3. 一過性の軽い副作用としてあらわれることがあります。直ちに服用を中止する必要はありませんが、症状が持続したり増強する場合は、服用を中止して専門家に相談する必要があります。

- 口のかわき
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)の抗コリン作用により、唾液の分泌が抑制されてあらわれることがあります。
- 眠気
抗ヒスタミン剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩)により、あらわれることがあります。

●アレルギール錠

【使用上の注意】

4. 5～6日間服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談して下さい。

【用法・用量に関連する注意】

1. 用法・用量を厳守して下さい。
2. 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させて下さい。
3. 4歳以上の幼児に服用させる場合には、薬剤がのどにつかえることのないよう、よく注意して下さい。

【保管及び取扱い上の注意】

1. 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に密栓して保管して下さい。
2. 小児の手の届かない所に保管して下さい。
3. 他の容器に入れ替えないで下さい。(誤用の原因になったり、品質が変わります)
4. ビンの中の詰め物は輸送中の錠剤破損防止用ですので、開封後は捨てて下さい。
5. 表示の使用期限を過ぎた製品は使用しないで下さい。

【解 説】

4. 5～6日間服用しても症状の改善がみられない場合は、他の疾患や合併症も考えられるので、服用を中止し、専門家に相談する必要があります。

1. 共通事項解説〔8〕参照
2. 共通事項解説〔9〕参照
3. 幼児では錠剤嚥下能力が低いいため、のどにつかえないように注意が必要です。

1. 共通事項解説〔11〕参照
2. 共通事項解説〔12〕参照
3. 共通事項解説〔13〕参照
4. 共通事項解説〔15〕参照
5. 共通事項解説〔17〕参照